

## 特別展示「都へのあこがれーひろがる京文化ー」によせて 大内氏と大友氏の遺跡と史跡

<http://www.kyoto-arc.or.jp>

(公財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館

**はじめに** 京都市考古資料館では、戦国時代から安土・桃山時代における京都と日本各地の文化交流をテーマとした特別展示「都へのあこがれーひろがる京文化ー」を開催しています。今回は特別展示で紹介している大内氏と大友氏の遺跡と史跡を御案内します。

**大内氏の遺跡と史跡** 大内氏は、周防(山口県)を本拠地とした大名です。応仁・文明の乱では大内政弘が西軍の主力として活躍、また、10代将軍足利義植の入京を大内義興が援助するなど、西日本の大大名として君臨し、最盛期には石見(島根県)・安芸(広島県)・

筑前(福岡県)にまで勢力を広げましたが、天文20年(1551)、大内義隆が家臣の陶晴賢により自害に追い込まれ、滅亡しました。

大内氏の本拠地である山口(山口市)は、京都を模倣した碁盤目状の街路が整備されました。また、朝鮮・中国との交易をすすめることで巨大な富を築くとともに、京都から文化の担い手である貴族・僧侶や手工業者たちを招聘したことから「西の京」と呼ばれました。

**大友氏の遺跡と史跡** 大友氏は、豊後(大分県)を本拠地とした大名です。大友義鑑や大友義鎮(宗麟)は足利將軍家と親交を深める

ことで権力・権威を高めました。義鎮は南蛮文化を取り入れたキリシタン大名としても知られていません。最盛期には筑前(福岡県)・肥後(熊本県)にまで勢力を広げましたが、天正6年(1578)、耳川の戦いで島津氏に大敗したことを契機に衰退しました。

大友氏の本拠地である府内(大分市)は、南北約1.5km・東西約0.6kmの範囲に広がり、大友氏館を中心に万寿寺などの寺院のほか、後にはキリスト教の教会も造られ繁栄しましたが、天正14年(1586)に、島津勢の攻撃により焼失してしまいました。(山本雅和)



大内氏の遺跡と史跡の位置図



①洞春寺観音堂(重要文化財) 大内持盛が永享2年(1430)に建立した仏殿です。大正年間に毛利元就の菩提寺である洞春寺へ移築されました。



②八坂神社(重要文化財) 大内弘世が応安2年(1369)に京都の祇園社から勧請したと伝えられています。明治年間までは京都にならった祇園祭が行われていました。



③瑠璃光寺五重塔(国宝) 大内盛見が嘉吉2年(1442)に兄の義弘の供養のために建立しました。日本三名塔(瑠璃光寺・法隆寺・醍醐寺)に数えられる「西の京」山口のシンボルです。



④大内氏館跡復元庭園(左)・龍福寺本堂(右 重要文化財) 大内氏の邸宅である大内氏館は、最盛期には東西約160m、南北170m以上の規模の方形居館でした。大内氏の繁栄を物語る数々の遺物が出土しており、発掘調査で見つかった庭園などが復元されています。龍福寺は大内義隆の菩提寺として、毛利氏により大内氏館跡に建立されました。



大友氏の遺跡と史跡の位置図



⑤上原館跡 大分川左岸の台地に立地する大友氏の館跡です。規模は東西約80m、南北約100mの方形で、周囲には土塁と堀が残されています。



⑥大友宗麟像(左)・フランシスコ=ザビエル像(右) JR大分駅前の広場で、戦国時代の豊後府内を代表する2人の銅像が来訪者を迎えています。



⑦若宮八幡宮 大友氏初代の能置が建久年間(1190~1199)に鎌倉の鶴岡八幡宮から勧請したと伝えられ、大友氏の氏神として厚く信仰されました。



⑧万寿寺 大友貞親が徳治元年(1306)に建立した大寺院でしたが、島津勢の侵入にあたって焼失しました。江戸時代に場所を変えて再興され、今に法灯を伝えています。



⑨大友氏遺跡体験学習館 旧万寿寺跡にある学習施設です。大友氏400年の歴史や府内の発掘調査成果について学び、感じ、体験することができます。